

東通原子力発電所温排水影響調査 海洋環境調査(要約)

佐藤晋一

目 的

平成17年度から営業運転を開始した東北電力東通原子力発電所1号機から排出される温排水が周囲に与える影響を把握するための調査を実施する。

材料と方法

1. 調査海域 東通村白糖沖(図1)
平成27年度からは調査地点をSt.2、5~8の5地点のみに変更(図中、黒丸で示す)
2. 調査時期
第1四半期:平成29年6月6日
第2四半期:平成29年8月30日
第3四半期:平成29年11月22日
第4四半期:平成30年3月12日

3. 調査項目

平成27年度から調査項目を水温・塩分のみに変更。5地点で、CTD(鶴見精機またはJFEアドバンテック)を用いて水温・塩分を測定した。表層はバケツで採水した表面海水の水温を棒状水銀温度計で測定し、試水は水産総合研究所に持ち帰りサリノメーター(渡辺計器)を用いて塩分を測定した。

4. その他

平成23年2月より原子力発電所が運転停止中のため、各時期とも温排水は排出されていない状況である。

結 果

1. 第1四半期

水温:全体は12.2℃~13.0℃の範囲にあって、このうち、表層は12.8℃~13.0℃の範囲にあった。

塩分:全体は33.3~34.0の範囲にあって、このうち、表層は33.3~33.4の範囲にあった。

2. 第2四半期

水温:全体は19.1℃~20.3℃の範囲にあって、このうち、表層は19.4℃~20.2℃の範囲にあった。

塩分:全体は33.6~34.0の範囲にあって、このうち、表層は33.6~33.9の範囲にあった。

3. 第3四半期

水温:全体は13.5℃~14.5℃の範囲にあって、このうち、表層は13.5℃~13.7℃の範囲にあった。

塩分:全体、表層ともに34.0~34.1の範囲にあった。

4. 第4四半期

水温:全体は6.8℃~7.5℃の範囲にあって、このうち、表層は6.8℃~7.3℃の範囲にあった。

塩分:全体、表層ともに34.0であった。

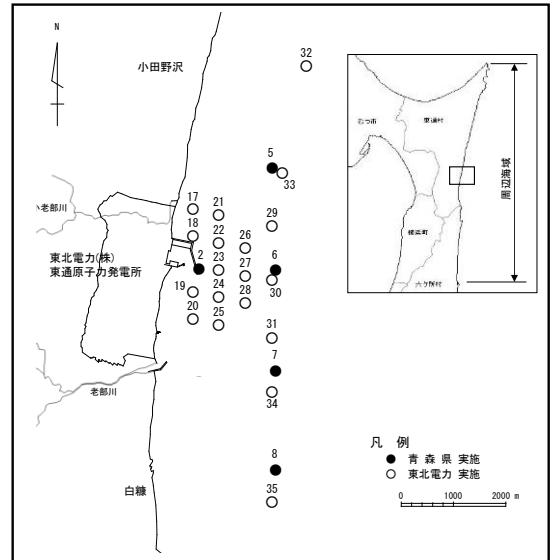


図1. 調査位置図